

SABO NEWS LETTER

第 60 号【発行日】平成 15 年 1 月 8 日（水）【発行】（社）全国治水砂防協会

目 次

- 1 . 目 次、当面の行事予定 1
- 2 . 国土交通省砂防部長より新年のご挨拶 2
- 3 . (社)全国治水砂防協会理事長より新年のご挨拶 3
- 4 . 平成 14 年度雪崩防災シンポジウム 4

行 事 予 定

平成 15 年

2/6(木)～ 7(金) 平成 14 年度雪崩防災シンポジウム（滋賀県余呉町）

2/18(火) （社）全国治水砂防協会理事会（砂防会館霧島会議室）

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

社団法人 全国治水砂防協会

担当 宮内，小林，阿部，畑川，藤川

住所 〒 102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-5 砂防会館内

電話 03-3261-8386 FAX 03-3261-5449 E-mail : kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください

<http://www.sabo.or.jp/>

皆様へ

砂防部長

岡本 正男

新年明けましておめでとうございます

静かに明けに平成15年1月5日の長野県安曇村での雪崩災害で、あらためて厳しい自然災害の宿命をもつ我が国を想い、本年も減災のために皆様とともに頑張る決意を新たに、日々努力を重ねていきたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

平成15年1月6日

仕事始め

新年のご挨拶

(社)全国治水砂防協会
理事長 大久保 駿

新年明けましておめでとうございます。皆様方には清新なお気持ちで新春をお迎えになられたこととご推察申し上げます。

会員の皆様には、昨年も砂防事業促進のため、そして砂防協会発展のため、ひとかたならぬご支援を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。

年末の予算編成におきまして、平成 15 年度砂防関係事業予算は他の公共投資と同様に引き続き抑制され、対前年比 4% 減と言うものとなりました。このように抑制が長期化することに対して、国民の生命・財産を守る使命を持つ砂防の促進を担う砂防関係者の一員として、大きな危機感を感じざる次第であります。このような状況の中であるにもかかわらず、土砂災害防止のための砂防予算の確保に最大限の努力を続けられておられます砂防部の皆様のご努力に感謝申し上げます次第であります。

昨年は、我が国でも相変わらず土砂災害が発生しておりますが、世界でも、ヨーロッパの大水害、韓国の土砂災害など各地で大きな災害が発生しております。確実に災害の発生の様相が変化してきていると感じております。そしてこのような災害は異常気象と相まって引き続き起こり続けると予想しなければなりません。多様化、頻発する災害の発生を手をこまねいて待っているわけには行かないのであります。着実な事業の推進が必要であると思えます。

防災と言う仕事は元来大変地味なものです。人との関わりで災害が起こるのですから、砂防の仕事は沢山の人に知ってもらうことが大事です。砂防への理解がいろんな人々に浸透していくことが、砂防事業への理解、災害を防ぐ住民の自主努力の醸成につながって行くと思うのです。このことを、昨年の新年のご挨拶で申し上げ、砂防協会の重要な仕事として様々な活動に取り組んで参りました。

昨年 11 月、青木奈緒氏による「動くとき、動くもの」が出版されました。各地の"崩れ"を見て歩いた"体験紀行"であります。産経新聞の書評で、"・・・桜島、有珠山、普賢岳、富士山など、現代日本の崩壊の現場で、著者は砂防に取り組む人々と出会う。人間は毎日の安全があたりまえと思っているが、どこからその安全がもたらされるのか、振り返ることもない。「砂防」という仕事は人目にもつかず、世間との距離はひらいている。この旅で、著者は世の無常にたどり着き、大きくひらけた心を実感する。・・・"と評されています。

"砂防"を分かりやすく説明すること、"砂防"を誰にでも分かる言葉にすることがいかに大変であるか、でもいかに大事なことであるかを考えさせられています。皆様も是非この書をお読みになっていただければと思っています。

砂防協会は、その活動の理念であります、"砂防事業の発展により公共福祉に寄与する"をよく噛みしめ、事業促進のみならず多種多様な公益的な事業をこれまで以上に充実発展させて、砂防関係界の期待に応えていきたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成14年度雪崩防災シンポジウム
「^{ふるさと}湖国の雪・くらしとまちづくり」

国土交通省砂防部

日本は世界でも有数の雪の多い国で、国土面積の半分以上（52%）の地域が豪雪地帯に指定され、その地域に全国の2割にあたる約2,100万の人々が生活を営んでいるため、毎年のように雪崩災害が発生し、住民にとって脅威となっています。これに対し、国土交通省及び都道府県は、雪崩から人命・人家を守るため、雪崩防止施設の設置（ハード対策）を実施しています。しかし、現在でも未対策の雪崩危険箇所が数多く残されているばかりでなく、スキー場・冬季山岳等においても雪崩による災害が多発していることから、国土交通省及び都道府県では毎年「雪崩防災シンポジウム」を開催し、雪崩災害に対する啓発を行っています。

今回雪崩防災シンポジウムを開催する滋賀県余呉町は、琵琶湖の周囲を1000m前後の急峻な山々がとり囲む滋賀県の北部に位置し、スキー場等も数多く立地する豪雪地帯で、雪崩災害の危険性が高い地域です。今回のシンポジウムは、「湖国の雪・くらしとまちづくり」をテーマとして、積雪地域に住む人々が自然の恩恵と危険にどう対処していくかを全国の人々と考えていくことを目指しています。入場無料ですので、多くの方々のご参加をお待ちしております。

シンポジウム概要

(1) シンポジウム(参加無料)

日 時： 平成15年2月6日(木) 12:30～17:00

場 所： はごろもホール(滋賀県伊香郡余呉町)

開催テーマ： 「^{ふるさと}湖国の雪・くらしとまちづくり」

プログラム

1. 講話「郷土の歴史」

2. パネルディスカッション

コーディネーター 蔦田恵子(びわ湖放送キャスター)

パネリスト 伏見碩二(滋賀県立大学教授)

野崎美樹(西浅井町立永原小学校教諭)

湯本佳代子(余呉町社会福祉協議会職員)

余呉町長

コメンテーター 岡本正男(国土交通省砂防部長)

(2) 現地見学会(有料)

中河内地区 雪崩対策事業(伊香郡余呉町)等



事務局：国土交通省砂防部保全課
滋賀県土木交通部砂防課

tel 03-5253-6470
tel 077-528-4192